

4-2-1.JSP準備と実行

■ JSP準備と実行

はじめに

javaにはJSPという技術が存在します。

JSPには、JavaとHTMLのコードを一緒に記述することができます。

「画面のformから入力した値が適切か判定したい」や

「入力値を適切な値にフォーマットして出力したい」といった要件に対応することが可能です。

現場で目にすることも多い書き方なので、まずはJSPを使うための準備から始めましょう。

JSPを用いた開発の準備～プロジェクト～

eclipseを用いてJSPを使用する準備をしていきます。

まずは下準備として、JSPを用いた開発に必要なプロジェクトを作成します。

1: 「パッケージ・エクスプローラー」を右クリック→「新規」->「動的Webプロジェクト」を選択



2: 「プロジェクト名」を入力して「完了」をクリック

新規動的 Web プロジェクト

動的 Web プロジェクト

スタンドアロンの Java ベースの Web アプリケーションを作成するか、新規または既存のエンタープライズ・アプリケーションに追加します。

プロジェクト名:

プロジェクトの場所

☒ デフォルト・ロケーションを使用

ロケーション: [参照...](#)

ターゲット・ランタイム

[新規ランタイム...](#)

動的 web モジュール バージョン

構成

[変更...](#)

Tomcat9 (Java17) ランタイムを操作するための良い出発点です。後で新しい機能をプロジェクトに追加するために追加ファセットをインストールすることができます。

EAR メンバーシップ

☐ EAR にプロジェクトを追加

EAR プロジェクト名: [新規プロジェクト...](#)

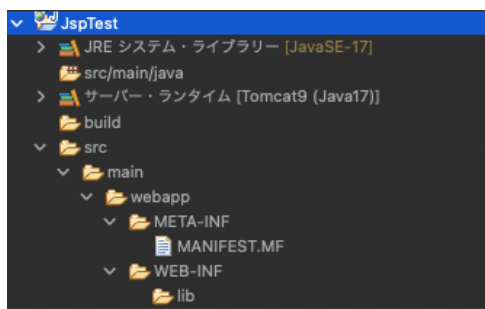
ワーキング・セット

☐ ワーキング・セットにプロジェクトを追加 [新規...](#)

ワーキング・セット: [選択...](#)

[?](#) [< 戻る](#) [次へ >](#) [キャンセル](#) [完了](#)

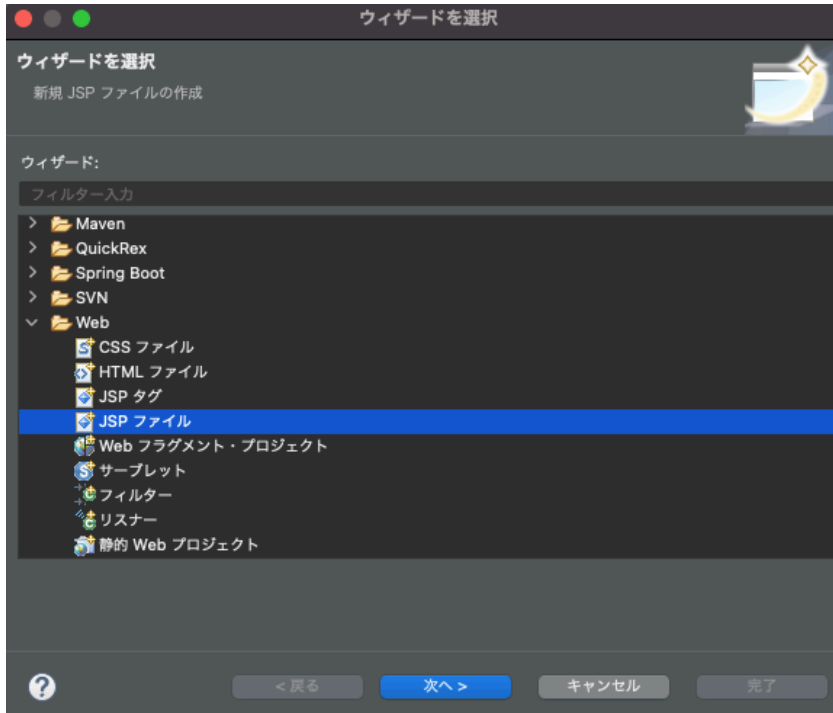
上記手順を踏むことで、JSPを用いた開発に必要なプロジェクトが作成されます。



JSPを用いた開発の準備～JSPファイル～

次に、作成したプロジェクトの中 **jspファイル** を作成します。

1 : 「パッケージ・エクスプローラー」配下の「Webapp」フォルダを右クリック→「新規」>JSPファイル を作成して下さい。
jsp・HTML・CSS・imgといったフロント資材はこの「Webapp」フォルダ内へ配置していきます。



上記手順を踏むことで、「Webapp」内にJSPファイルが作成されます。

作成されたJSPファイルは下記のソースコードとなっています。
HTMLファイルと非常によく似た記述となっているのが確認できますね。

```
<%@ page language="java" contentType="text/html; charset=UTF-8"
    pageEncoding="UTF-8"%>
<!DOCTYPE html>
<html>
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title>Insert title here</title>
</head>
<body>

</body>
</html>
```

JSPの実行

では、実際に作成したJSPファイルを実行してみましょう。
実行に際して、先ほど作成されたJSPファイルを実行すると「Hello World!」が出力されるように
<h1>タグを追記してあります。

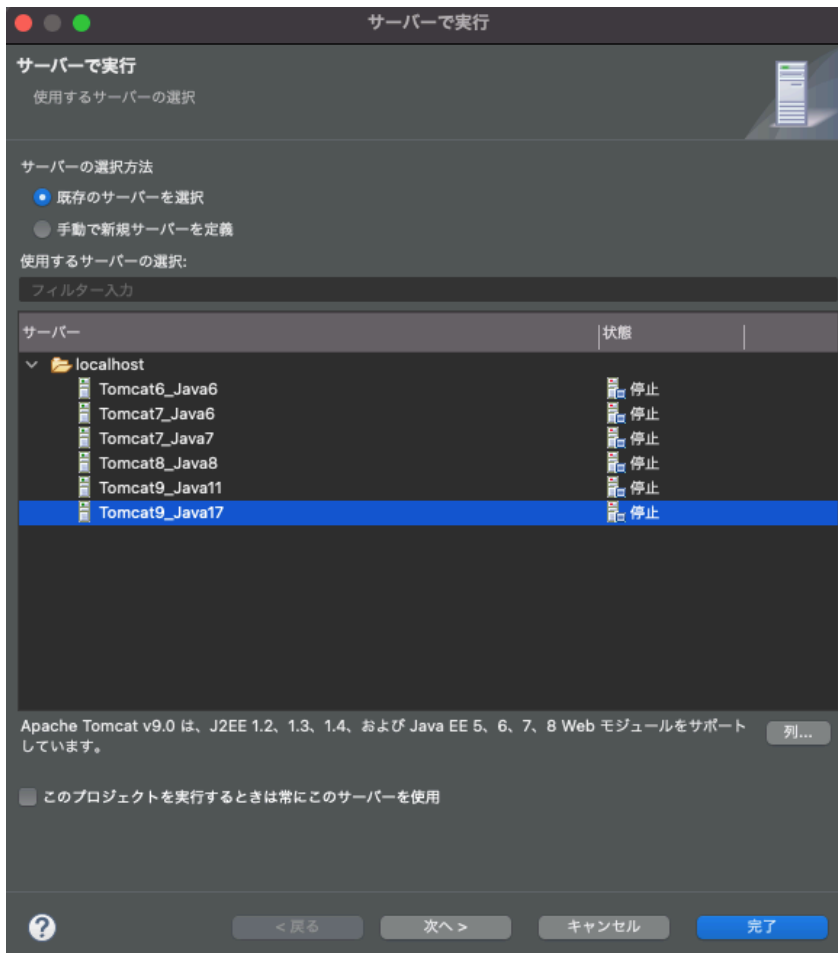
```
<%@ page language="java" contentType="text/html; charset=UTF-8"
    pageEncoding="UTF-8"%>

<!DOCTYPE html>
<html>
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title>Insert title here</title>
</head>
<body>
    <h1>Hello World! </h1>
</body>
</html>
```

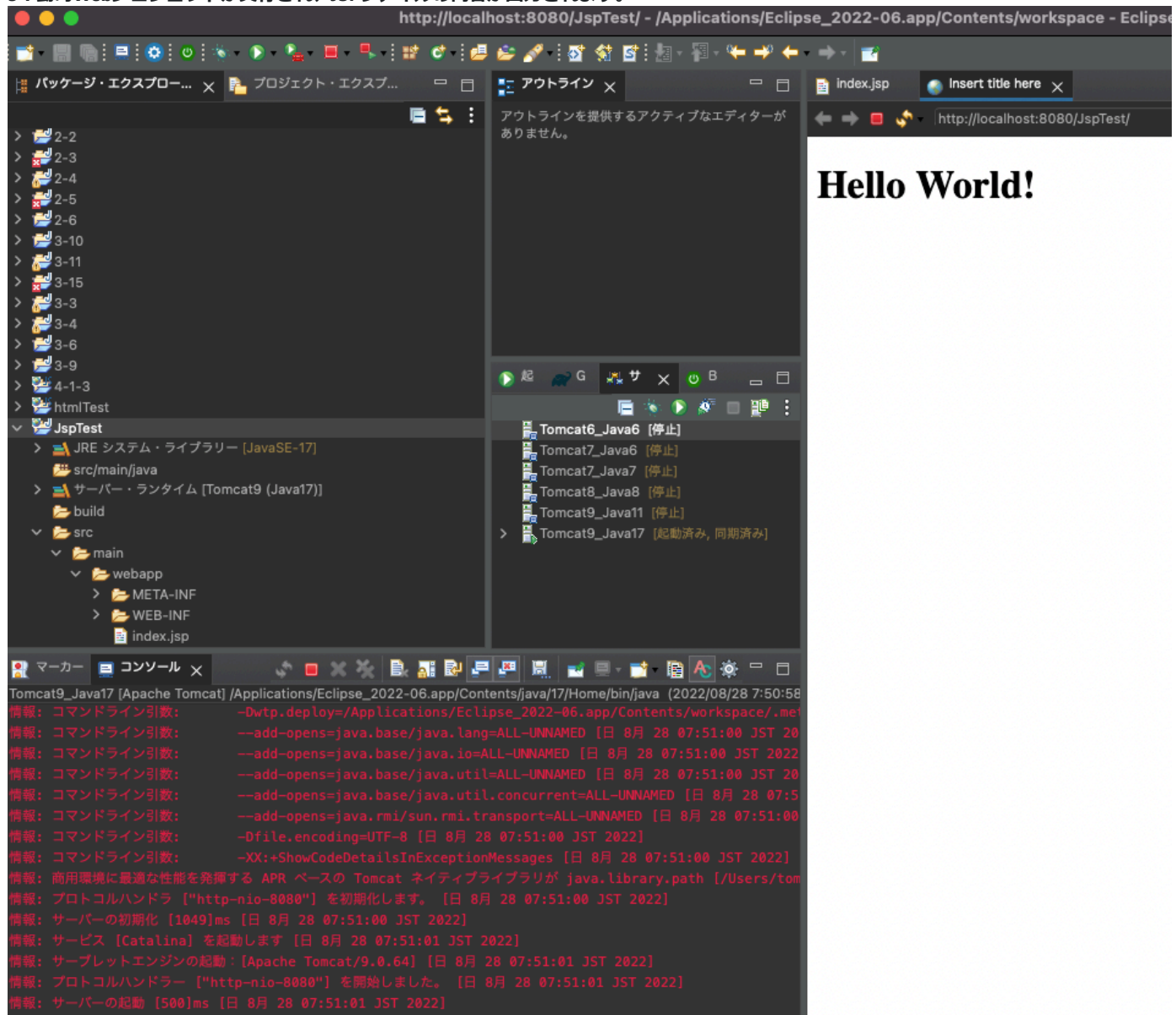
1 : 対象のプロジェクトを右クリック→「実行」>「サーバーで実行」をクリック

2 : サーバーのタイプを選択して「完了」をクリック

先ほど動的Webプロジェクトを作成する際、ターゲット・ランタイムで「TomCat9」を選択した為、
サーバーのタイプは「TomCat9」を選択します。



3 : 動的Webプロジェクトが実行され、JSPファイルの内容が出力されます。



まとめ

JSPファイルを作成し実行するまでの手順をまとめましたが、

「プロジェクト作成」→「ファイル作成」の手順はこれまでと何も変わりません。

サーバー実行に関しても、TomCatの指定は必要ですが「**javaアプリケーション**」実行の手順と大差ありません。

とはいえ現場で開発を行う際や、アプリケーションを起動する際には必須の知識となります。

慣れてしまえば流れで全て行えるようになるので、

覚えるというよりも実際に作成→起動の手順を行って、体で覚えてしまうと良いでしょう。

課題

提出課題はありませんので、一通り学習が終わったら次の章に進んで下さい。

最終更新日時: 2024年 05月 27日(月曜日) 13:29